

大雄母親クラブ「はんど・はんど」 (秋田県)

【団体の概要】

近年、世代間の文化の伝承が、家族や地域の中で失われつつあり、育児への不安や悩みを抱える母親が増えています。安心して子供を産み、育てることができる環境を作りたいとの思いから、平成15年9月1日、全国地域活動連絡協議会の支援を受け、母親クラブとして発足しました。発足当時は、協議会の規定により、保育園の保護者30名で構成されていましたが、現在は、協議会の支援はなく、自主防犯団体として、会の活動に賛同する21名で構成されています。地域から必要とされる活動と自分たちが必要とする活動をしており、防犯活動、子育て支援活動、その他のボランティア等、幅広く活動をしています。

【活動内容・課題】

通学路での見守り活動、青色防犯パトロール、防犯に関する本の読み聞かせ、敬老会における防犯寸劇や講話、年末年始の金融機関特別警戒及び立入とパトロール、車の施錠を推奨するロックパトロール、夏祭り等の各種イベント時のパトロール、保育園児と一緒に交通安全マスコットの配布、子供110番のぼり旗の配布等を行っております。

会員が子育て中であつたり、仕事をしている母親であるため、『無理なく楽しく、地域のため、自分のため』をモットーとし、また、『みんなで守ろう、私の命、あなたの命』を合言葉に、息の長い活動を続けられるよう心掛けています。

課題は「会員の確保」「活動資金」「情報の共有と連携の強化」です。

まず、会員の確保ですが、はんど・はんど之母体は母親クラブで、安心して子供を産み育てることができる環境づくりを目指し、団体を結成しましたが、県の取組の変化に伴い、母親クラブという組織が解散してしまいました。しかし、私達は、自分達が必要としていることを続けていきたいという思いから、自主活動団体として継続していくこととしました。子供の成長、家族の高齢化、就労形態の変化により、活動が困難になる会員が出てきましたが、できないからやめるのではなく、無理のない範囲での活動を推奨し、できる人ができる時にできることをするという考えで、



活動地域の紹介

横手市大雄地区

街紹介 問題点

- 旧「平鹿郡大雄村」
 - H17.10.1横手市と合併
 - 奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた横手盆地の中央に位置し、自然豊かな農業、「ホップ」の生産が盛ん
 - 人口約5,000人、世帯数約1,600戸
 - 小・中学校、保育園が各1校ずつ
 - 犯罪が少ない平穏な地域
- 平穏な地域のため防犯意識が低い
 - 住民意識の都市化により地域のつながりが希薄になっていた
 - 少子、高齢化が進む過疎地域
 - 各種ボランティア団体の横の連携がとれていなかった

団体の紹介

○結成年月日	～ 平成15年9月1日
結成の経緯	安心して子供を産み、育てることができる環境作り 母親クラブ～保育園の保護者30名で結成(全国地域活動連絡協議会の支援)
	秋田県が協議会から撤退 → 母親クラブ解散 → 自主防犯団体結成
○構成員	～ 会員 21名、平均年齢 47歳 大雄地区の小、中、高校生の保護者で構成
○活動内容	～ 通学路での見守り活動 ・青色防犯パトロール 防犯本読み聞かせ活動 ・防犯講話・寸劇 金融機関警戒 ・ロックパトロール 夏祭り等各種イベント時の巡回パトロール 交通安全マスコット・子ども110番のぼり旗等の配布
モットー	～ 無理なく、楽しく、地域のため、自分のため みんなで守ろう。私の命、あなたの命

長く続く活動を目指しています。

次に、活動資金についてです。発足当時は補助金を受け、事業を行っていましたが、母親クラブが解散し、補助金もなくなったため、資金がなくてもできる活動を続けています。例えば、通学路における子供見守り活動、小学校や保育園での防犯に関する本の読み聞かせ活動、敬老会での防犯寸劇による広報啓発活動等です。資機材は、警察庁の地域安全安心ステーション推進事業の活用や他の防犯活動関係団体との連携により確保しています。

最後に、情報共有・連携の強化についてです。犯罪の少ない平穏な地域であることに加え、住民意識の都市化により、地域のつながりが希薄になっていることから、地域防犯活動がなかなか浸透・発展しませんでした。地域の子供達を守るためには、各団体が横のつながりを持って情報を共有し、連携をして活動することが有効・重要であると考えました。各団体、行政機関、学校関係に働き掛けを続けた結果、合同活動や会合を実施する安全パトロールネットワーク協議会を立ち上げることとなりました。その結果、情報の共有、連携の強化が可能となりました。会員が協議会の中で、団体や関係機関のパイプ役となり、現在は防犯指導隊員、交通指導隊員、消防隊員、民生児童委員、学童保育指導員、子供教室指導員等を兼任しており、色々な立場で地域や子供達に関わり、子供達の顔が分かる状態で活動ができるようになりました。

【今後の取組】

私達は子供を見守ることは大切だと思っていますが、何よりも大切なのは、自分で自分の身を守ることができ、そして命を守ることができる子供を育てることが、重要だと考えています。

時代は変化しますが、必要とされていることをキャッチしながら、活動を続けていきます。団体名の「はんど・はんど」は、手と手を取り合って活動をしていこうという願いが込められています。これからも会員同士、仲良く、支え合いながら、母親からおばあちゃんになるまで、活動を続けていきます。

団体の課題

会員の確保

活動資金

情報の共有・連携の強化

課題の解決に向けた取組1

会員の確保

活動の継続	安全な環境作りを継続していく必要がある！
活動母体の解散	母親クラブの解散に伴い、多くのメンバーが退会
犯罪の未然防止	母親の目線から地域の安全を書える必要がある
凶悪事件の発生	平成18年に秋田県で連続児童殺人事件が発生!! 凶悪事件から子供達を守るため、自主防犯活動を活性化しなければならない!!
会員の確保	できる人が、できる時に、できることをする！
母親クラブのメンバー	活動継続の必要性を理解してくれるメンバーが残留
親児・児童の保護者等	活動の趣旨を理解してもらい、賛同者を募る
☆	子供の成長、家族の高齢化、就労形態の変化等により、活動が困難になる会員も出てきたが、「できないからやめてしまうのではなく、無理がない範囲での参加を推奨」し、会員を減らすことなく活動を継続！

課題の解決に向けた取組2

活動資金

補助金「0」	母親クラブが解散したため補助金が「0」に...
資金が不要な活動の推進	○通学路における子供見守り活動 ○小学校・保育園における防犯本の読み聞かせ活動 ○防犯講話・防犯寸劇による広報啓発活動
資機材確保	推進事業の活用と他団体との連携強化！
防犯用品の確保	警察庁の地域安全ステーション推進事業を活用
巡回車両の確保	防犯指導隊、交通指導隊の車両に同乗してパトロール
資金の確保	防犯本や小道具の購入費等活動資金の確保
バザーへの出品	バザーに子供用品、手芸品等を出品して活動資金を確保
謝礼金等の活用	敬老会での講話・寸劇に対する謝礼金等で物品を購入

課題の解決に向けた取組3

情報共有・連携の強化

初期の状況	各団体が別々に活動している「縦割りの体制」 「防犯は防犯」「交通は交通」という「縦割りの体制」の活動が主流
地域の子供たちを守るためには、各団体が横断的に情報を共有し、連携して活動することが有効かつ重要である！	
連携の強化	各団体をつなぐパイプ役の立場を確立!!
学校関係	防犯協会 ↔ 防犯指導隊 ↔ 交通指導隊 ↔ 行政機関
ボランティア団体	駐在所 ↔ 消防隊
☆	行政機関、学校等に対する働きかけを続けた結果、各団体が情報を共有し、合同活動・会合等を実施する「安全パトロールネットワーク協議会」の立ち上げに成功!! 「はんど・はんど」がパイプ役となり、横の連携を強化!